

『紅葉を訪ねて： 尾瀬ヶ原』

尾瀬ヶ原山行報告 (2023年10月1日～2日)

前回尾瀬に「草紅葉」を見に行ったのは2014年9月27日～28日で、鳩待峠から入って沼山峠バス停に着いた時、木曾の御嶽山の噴火のニュースを聞いたのだった。今回は結局、伊藤さんと陽田の2名で出かけることになった。

気象情報によると尾瀬ヶ原は「1日は曇り、2日は晴れ」ということだった。7時にバスタ新宿で伊藤さんと会い、7時15分発の「尾瀬号」に乗車する。関越自動車道を走行中の9時頃に急に強い雨が降って来たが、この雨は幸い11時少し前に尾瀬戸倉に着いた時には止んでいた。戸倉からシャトルバスに乗り換えて鳩待峠に着いた時には、一部青空も見えてきた。鳩待峠の「鳩待山荘」は建て替えのために、2か所で基礎工事が進められていた。尾瀬ヶ原から登って来た人達は皆、雨合羽に身を包み、雫を滴らせている。空の背負子を背負ったボッカさん（歩荷）がいたので、「今日も荷物を運ぶんですか」と訊いたら、「山の鼻ビジターセンター」で“トークショー”をやるので行くのだとのことだった。

12時10分、我々は昼食を済ませて出発する段になって、まだ雲が多く残っているので、悩んだ末に安全を取って雨合羽を着て出掛けることにした。「山の鼻」への下り道にかかると直ぐ石畳の階段坂になる、いままで降っていた雨のために石も補強の横木も滑りやすい、なかなか気の抜けない石畳道だった。石畳の道は直ぐ終り、土道、木階段、木道の繰り返しになる。やがて脇を流れる「川上川」が迫ってきて、道の勾配も楽になる。川を渡ってすぐ、13時25分「山の鼻」に着いた。丁度13時半から「山の鼻ビジターセンター」で歩荷さん達の“トークショー”が始まると、係の人が呼び込みをしていたが、我々はパスすることにした。

小休止後13時35分出発し、尾瀬ヶ原へ出る。幸い雨は降ってこないが、雲が低く垂れこめている。小さな川を渡ると原が少し開けてきて、「尾瀬ヶ原」らしくなってきた。一部にはまだ緑色の葎も残っているが、全体としては綺麗な草紅葉である。しかし残念なことに日差しがないので「輝く黄金色の草紅葉」とは言えない。池塘に燧ヶ岳を映し出す「逆さ燧」の場所でも、燧ヶ岳は完全に雲の中で見えなかった。まあ明日に期待しましょう。日曜日の午後なので、行き来する人は少ない。

14時35分「中田代三叉路（牛首分岐）」に到着、水分補給をしていたら、7～8人の男女大学生が来て、先に進むか戻るか話し合いを始めた。16時30分の最終バスで戸倉に下らねばならないらしい。ここからだ標準のコースタイムで125分だから、先へ進めば戻りは“駆け足”になる、結局全員戻っていった。

ひたすら濡れて滑りやすい木道を歩く、木道も所々古くなって一部腐っていて凹んだりしているので、注意しながら歩かねばならない。時々周りの景色を眺め、あとは足許を見ながら黙々と歩いた。15時20分「龍宮十字路」に到着、橋を渡るがここが群馬県と福島県の境界だ。驚いたことに途端に木道の整備ができていない！木道は腐って芯部分が背骨の様に残り、縦方向の“洗濯板”だ。鳩待峠からこの辺までは、日返りの観光客も多いのである程度手入れができていますが、この先まで行く人が少ないためか。それにしても極端だ、兎に角歩き難い、脚を捻って“捻挫”しそうである。

もうここまで来ると誰も居ない、最後の30分をひたすら見晴へ向かって、木道の溝にはまらない

ように歩く。道が吸い込まれるように真正面に「弥四郎小屋」は建っていた、15時50分に到着。

チェックイン時、いきなり夕食時間を訊かれる、17時20分又は18時と、そしてそれにリンクして、朝食時間が5時30分と6時に決定された。我々は早い方の“17時20分”とした。部屋は別館のそのまた奥の別棟と。結果的にはこの別館に風呂場があり、奥の別棟なので人の行き来がなく静かで良かった。部屋は4畳半で窓は本館玄関方を向いていた、2人なら丁度良い広さだ。早速汗を流しに浴室へ行く、驚いたことに2種類の液体洗剤が置いてあった。これまでは環境保全のために“石鹸禁止”と聞いていたが、排水処理設備が格段に性能向上したので、可能になったのだとか。

夕食で食堂に行くと、もう皆さん座って食べていた。あまりお酒を飲んでいる人も見かけなかったが、我々も後の組があるので早々に部屋に戻った。

まだ18時前、“反省会”として今後の山行計画につき話をした。10月は「那須・茶臼」と「小江戸川越」が決まっている。11月下旬以降の“紅葉狩り”では「高尾山」「成田山公園」「嵐山溪谷」「昇仙峡」等々。12月の忘年山行は京王線の「長沼公園+鎌田鳥山」に決定している。1月は「富里の水仙」がバスで便利、「鎌倉七福神巡り」など。2月初めは「宝登山のロウバイ（ロープウェイ可）」等とかなり先まで案が出た。

2日朝5時少し前に起きて外に出てみると、なんと小雨が降っている。昨晚夕食時お隣に座った比較的若い男性2名は既にヘッドランプを点けて出発するところだった、訊いてみると「見晴新道」から燧ヶ岳頂上を目指すという、気を付けて行ってください！5時半に朝食を摂る、やはり後続組がいるので早々に退散した。気象情報では段々雨は上がるという。やがて雨は上がったし、段々晴れてくる筈なので雨具は不用だが、朝の最低気温は一桁なので寒い、防寒用に雨合羽の上だけ着た。

7時に出発する、もう雨は上がっていた。へたった縦洗濯板の上を注意しながら歩く。頭上の雲には切れ目はあるものの、日差しは部分的だ。振り返って見ても燧ヶ岳は半分から上は雲の中だ。7時35分、竜宮小屋に到着。時々太陽が顔を出し、一面「輝く黄金色の草紅葉」を照らし出した。

8時30分、「牛首分岐」に到着、8時50分、「逆さ燧」の見えるベンチに着いた、燧ヶ岳の頂上付近の雲は時々晴れるので、暫く待つために小休止した。9時40分に「山の鼻」に到着、9時50分にいよいよ登り道に掛かる。この道では熊の出没があるので、所々の鐘が置いてある。最初は比較的緩かった道も「蛙岩」を過ぎて、10時32分急坂の下に到着。ここからは木道、木階段と土道が交互に現れる。幸い昨日来の雨で濡れた筈の木道、木階段、石段は乾いているので幾分気が休まる。

11時45分ようやく「鳩待峠」に到着した峠の食堂で昼食を摂り、時間をみると座席に空席があれば「戸倉13時30分発」のバスに乗れるかもしれないと、12時20分のバスで戸倉へ下った。しかし、バスの案内所（事務所）は閉鎖されていて、変更が不可能だと分かった。止む無く「尾瀬ぶらり館」で待つことにした。館内の隅の方の椅子に座って、尾瀬を紹介するビデオを見ることにした。全4部作あって約1時間位かかった。

15時30分発の尾瀬号に乗車すると、後は居眠りしているうちに定刻より20分ほど早くバスタ新宿に到着した。西口の「サイゼリア」で夕食を摂った後、新宿駅で解散した。



輝く草紅葉



燧ヶ岳へまっしぐら



池塘の“逆さ燧ヶ岳”



至仏山



燧ヶ岳を背に



鳩待峠に戻ってきました